

【現代社会学部】令和6年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

特になし。

② シラバス

シラバスの第三者チェックを実施し、シラバスに記載すべき事項を正確に学生へ提供するための体制が整っている。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

カリキュラムツリーについては、令和7年2月14日に開催された「3つのポリシー点検・見直しのための学部教学マネジメント研究会」に新旧運営委員ならびに事務長が参加し、学部のカリキュラムツリーを作成する中で理解を深めるとともに、その結果を掲示し、教職員との共有を図った。

課題

カリキュラムマップについては、既存の専門教育科目においては内容の確認を行っているが、カリキュラム改編によって閉講となる科目や新設科目が出てくることが想定され、それに向けたカリキュラムマップの再検討が課題である。

シラバスの記載内容については、とりわけ「14回+オンデマンド授業」に変更になったため、統一した記載とならなかった。

カリキュラムツリーについては、作成したものを踏まえ、各科目の関係や体系についての理解を深めることが課題である。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

教学 IR 情報を共有するとともに、成績分布情報等を活用して教育プログラムの見直しを行い、現在の科目レベルの適切性等についての理解を深め、カリキュラム改革に活用した。

また、カリキュラムマップを公開するとともに、令和7年2月14日に開催された「3つのポリシー点検・見直しのための学部教学マネジメント研究会」にてカリキュラムツリーを作成し、教職員との共有を図った。

課題

令和8年度に開始される新カリキュラムの開設に向けて、三つのポリシーの見直しをはじめ、教育課程の可視化に向けた準備を進める。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

教育支援研究開発センターの協力を得て、学修成果実感調査の分析と共有を実施した。学部全体として見たとき、「授業外学習時間」「授業の目標達成度」「学ぶ意欲」「授業の満足度」のいずれにおいても、春学期より秋学期の方が良好な数値が得られている。

課題

「学ぶ意欲」では、「そう思う」「強くそう思う」の合計が2024春学期77%、同秋学期79%、「授業の満足度」では、「そう思う」「強くそう思う」の合計が2024春学期82%、同秋学期85%、「授業の目標達成度」では、「60%以上～80%未満（概ね達成できた）」「80%以上（達成できた）」の合計が2024春学期96%、同秋学期97%と概ね良好な数値である。これに対して、「授業外学習時間」では、1時間未満が2024春学期70%、同秋学期66%と、一時間未満の割合が半数を超えている。この点で、授業外学習時間について検討が必要である。

アセスメントプランの取り組み

①結果

教育支援研究開発センターに協力をお願いし、アセスメント科目の分析を実施した。「社会学入門A」、「演習Ⅱ」、「プロジェクト演習Ⅱ」と「その他の授業」について、学習成果実感調査の全学部共通設問の集計と分散分析をおこなった。科目毎にそれぞれ異なる特徴が示されたが、明確な傾向を取り出すことは困難であった。

②課題

今回はまずはアセスメントを実施して課題を洗い出すことを目的とした。その結果、アセスメントのためには、アセスメント科目と他の科目を比較必要するなど工夫が必要であることが判明した。分析から有効な指針を得るためにどのような作業を実施すべきか、検討が必要である。

また学習成果実感調査の回答率が全学の平均よりも10ポイントほど低いため、回答率を上げる工夫も必要である。

※この内容は令和6年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学HPへの掲載を検討します。